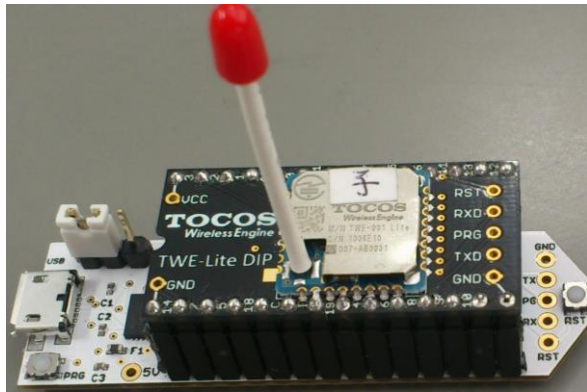


TWE Engine (表面実装タイプ)のUART通信アプリ書き込み



極力、軽く、薄く、小さく作製したいため、無線モジュールタイプを使う。親指ほどの大きさ。



基板付のTWE-Lite-DIP であれば、トワイライター基板で、書き込める。今回は右図のような基板を自作して書き込んだ。

UART通信アプリの書き込み

http://tocos-wireless.com/jp/products/TWE-ZERO/App_Uart/index.html

ダウンロードポイント ⇒ v1.2.10 リリース ([TWE-Lite用](#)) ※ JN5164 用を書き込みます)

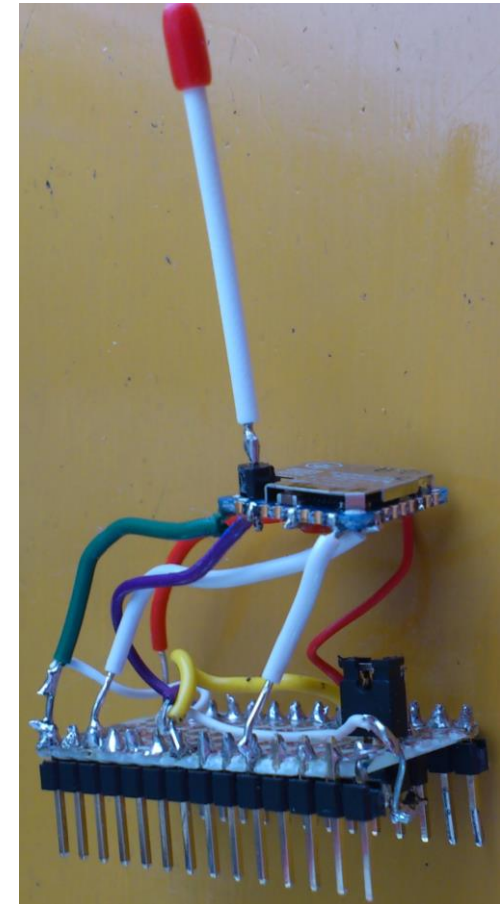
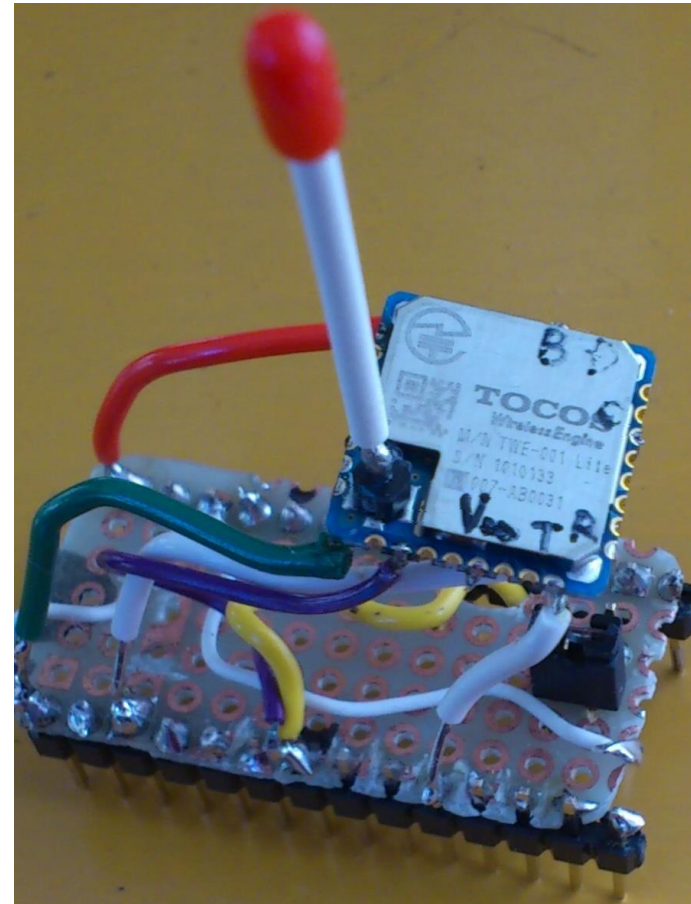
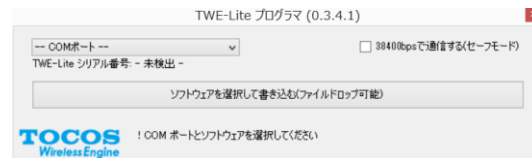
ファイル名: App_Uart_Master_JN5164_1_2_10.bin
TWE-Lite 専用のUARTバイナリプログラム

専用プログラムのインストール

<http://tocos-wireless.com/jp/tech/misc/LiteProg/index.html>

ダウンロードポイント ⇒ [TWE-Lite プログラム 0.3.4.1](#)

このプログラムを起動して、中ほどの窓にバイナリファイルを放り込むことで、書き込みが開始する。 ⇒



トワイライターを用いて書き込むため、このようなTWE-Lite-DIP 互換基板を作製した。(雑な作りになってしまった)

⇒ くれぐれも、配線には注意する。 TWE-Lite-DIP 基板を参考にする時は、I (アイ) と 1 (いち) を混同しないように。 TOCOSのWEBページの通りに操作すればOK

ショートピンなどで代用 (I2Cは使用しない)

以下は USB シリアル変換ケーブル TTL-232R-3V3 による接続例です。

<http://tocos-wireless.com/jp/products/TWE-001Lite.html>

この図を参考に基板を自作

